

学校保健

S C H O O L H E A L T H

2022. 5 No. **354**

公益財団法人
日本学校保健会
 JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH
<https://www.hokenkai.or.jp/>

令和4年度
年間特集

テーマ GIGA スクール構想と ICT 教育時代の学校保健

公益財団法人日本学校保健会 専務理事 **弓倉 整**

GIGAスクール構想とは、「1人1台の電子端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子ども達を誰一人取り残すこと無く、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと」が目的とされている。

GIGAスクール構想は令和元年に具体化し、学校教育の情報化の推進に関する法律も同年に制定されたが、新型コロナウイルス感染症による令和2年の学校一斉休業により、否応なしに学校のオンライン化が進んだように見える。確かに学校でのクラスターが起きた第6波では学級閉鎖、学年閉鎖が起きたにもかかわらず、オンライン授業により学びを中断することなく提供できるようになったことは評価できる。

しかしながらデジタル化による健康上の課題はあまり配慮されていないようにみえる。ブロッキングの問題もそのひとつだが、視力に与える影響や照明の照り返しや映りこみの影響等の課題もある。

学校教育の情報化の推進に関する法律の基本的施策を觀ても、デジタル教材等の開発及び普及促進、教科書に係る制度の見直し、障害のある児童生徒の教育環境整備、相当の期間学校を欠席する児童生徒に対する教育機会の確保、学校の情報通信技術活用の環境整備、個人情報保護等となっており、健康上の配慮や不適切なネット利用による課題等は項目として挙がっていない。

今回、急激に進む学校のICT化とGIGAスクール化について、学校保健上にひそむ課題や問題点を特集として取り上げ、注意喚起の一環とさせていただきたいと考える。

主な誌面

特集 **GIGAスクール構想とICT教育時代の学校保健**

総論 「学校保健」×「ICT」による新たな展望と可能性……………2～3

シリーズ⑩「健康教育をささげる」

日本学校保健学会の現場から……………4～5

全国健康づくり推進学校表彰校の実践①

群馬県高崎市立矢中小学校
 学校における熱中症対策……………8～9

蘇生ガイドラインの改訂とマロパッドの名称変更に至った背景……………1210

令和4年度学校保健用品推薦一覧……………1411

文部科学省へ学校保健施策に対する 要望書を提出しました

3月24日（木）、令和3年度学校保健施策に対する要望書を文部科学省へ提出いたしました。

各地区学校保健会で協議した学校保健に関する課題を日本学校保健会が取りまとめたものです。

子どもたちの健やかな成長を守り支えていくため、効果的な方策が講じられるよう強く要望いたします。



弓倉整専務理事 三木忠一健康教育・食育課長

回覧	校長	教頭	保健主事	養護教諭	保健委員	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回（奇数月）の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

特集

GIGA スクール構想と ICT 教育時代の学校保健

第1回 / 全5回予定

総論 「学校保健」×「ICT」による新たな展望と可能性

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 企画官 宇高 章広

GIGA スクール構想の進展と学校保健

文部科学省では、今後求められる個別最適な学びと協働的な学びの充実に不可欠な1人1台端末や高速通信ネットワークなどの学校情報環境を実現するGIGA スクール構想を推進しています。令和3年度は、ほとんどの自治体で義務教育段階の1人1台端末が整備され、本格的に充実した情報環境での教育が行われる「GIGA スクール元年」とも言うべき年でした。また、高等学校段階についても、自治体により違いはありますが、保護者負担により個人が学校に持ち込む端末も含め、令和6年度までにほとんどの自治体で1人1台端末が実現する予定です。

こうした学校の情報環境の飛躍的進展は、学校保健の分野にも大きな変化をもたらすものであり、この変化を学校保健の充実に生かしていくことが重要であると考えています。

学校保健におけるICTの活用事例

学校保健の分野においても様々な場面でICTの活用が考えられます。

まず、教師と子供がつながるといった場面です。高知県教育委員会では、児童生徒が1人1台端末を使って今日の気持ちを表現できる「きもちメーター」のアプリを導入しています。これにより児童生徒からの回答と、教師が見る実際の様子を重ねることで、気になる児童生徒の早期発見、早期対応につなげることが期待されます。こうした取組は、必ずしも専用のアプリがなければできないというのではなく、例えば端末に標準的に備わっている表計算ソフト等を同時編集することで、朝の会の健康観察の際に自分の体調等について簡単に報告し合う活動を行うことなどもできます。また、日常的な健康観察以外にも、1人1台端末を通じて心と体の健康に関するアンケート調査を行い、集計結果に基づき、必要な児童生徒に面談を実施するなどの取組も見られます。

1人1台端末ではなく、インターネットのアンケート機能を活用し、生徒が個人のスマートフォン等から毎日登校前に体温等の健康情報を入力、送信して、健康観察シートを作成管理する事例等も見られます。さらに、ちょっと話したいといった場合に児童生徒が気軽に養護教諭とつながることのできる「オンライン保健室」の取組も広がりが期待されます。これは、不登校児童生徒のみならず、特に新型コロナウイルス感染症の影響下で臨時休業等により学校に通えない場合における児童生徒の心のケアに効果が期待されます。

学校と家庭がつながるといった場面でのICT活用も期待されます。まず、先述のインターネットのアンケート機能を活用し、従前電話等により行っていた欠席連絡をデジタル化することが考えられます。これは特に忙しい朝の時間帯における効率的な対応につなげることが期待されます。加えて、これまで紙で配付していた保健だよりなどの発行物をデジタル化することも可能です。こうした取組により、適時に必要な情報を家庭に発信することができるようになります。



また、教職員同士がつながったり、関係者とつながったりすることが容易になることもICT活用の重要な効用です。もとより学校保健については養護教諭を中核として教職員が一丸となって組織的に対応することが重要ですが、各種情報をデジタル化することは即時に教職員が必要な情報を共有することを可能とします。また、学校医、学校歯科医、学校薬剤師をはじめとした関係者と協働して学校保健を推進するための学校保健委員会について、オンライン会議システムを活用して開催することや、オンデマンド方式により事前に資料を共有、説明をした上で会議を効率的に行うことも考えられます。特に新型コロナウイルス感染症の影響下において対面での開催が難しい場合、多忙な関係者の都合を合わせるためなどに効果的と考えられます。

以上のようなICTの活用事例については、1人1台端末の活用に関する全国の学校や自治体の優良事例等を紹介している文部科学省の特設サイトStuDX Style(スタディーエックス スタイル)(<https://www.mext.go.jp/studxstyle>)に掲載していますので、是非御覧ください。

視力低下への対応と今後の展開

このように1人1台端末をはじめとしたICTの活用は、子供たちの教育のみならず学校保健についても様々な効用をもたらすことが期待されるものですが、一方で、子供たちがデジタル機器を活用する時間が増加することにより、視力など健康面に影響が出ることを懸念する声もあります。

この点、近年、青少年がスマートフォン等を利用してインターネットを利用する時間は増加しており(※内閣府青少年のインターネット利用環境実態調査)、また、裸眼視力1.0未満の者の割合は過去最多を更新し続けています(※文部科学省学校保健統計調査)。

こうしたことを踏まえ、文部科学省としては、端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00001.html)や児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369617.htm)を作成し、各学校における活用を促すなどの取組を行っています。

また、文部科学省においては、令和3年度より、視力低下が進行する時期となる小中学生を対象に、視力の実態について詳細に把握するための調査を実施し、有効な対策を検討するための委託事業を実施しています。本事業は令和4年度も継続して実施することとしています。その成果は事業の進捗に応じて発信していきたいと考えています。

Society5.0とも言われる高度化した先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられた中で生きていく子供たちを育てていく上で、学校教育もICTの活用

抜きに行っていくことはできません。それぞれの学校において保健の分野でのICT活用を考えていく上でも個別最適で協働的な学びを実現していく視点を大事にいただき、子供たち一人一人の課題、悩みを捉えていく手段としたり、つながる力を協働的な活動に応用したりするなどの取組を充実していただくことを期待しています。



シリーズ 90

「健康教育をささえる」 ～日本学校保健学会の現場から～**日本学校保健学会誌「学校保健研究」における
連載「日本学校保健学会が保健教育の未来を考える」**茨城大学教育学部教授
日本学校保健学会関東地区代表理事 **瀧澤 利行****1. 日本学校保健学会における「保健教育研究」**

日本学校保健会とともに、日本の学校保健の研究・教育を牽引する一般社団法人日本学校保健学会では、法人化以前の時代から、学校における健康教育（以下、保健教育）について、さまざまな形態でそのあり方について、その内容、方法、そして授業担当者の養成などについて議論してきた。1970年代から1980年代にかけて。月刊誌として発刊されていた「学校保健研究」では、毎号「特集」が組まれていたが、その特集のテーマとして保健教育あるいは保健学習、保健指導のテーマは繰り返し取り上げられ、学会員がそれぞれのテーマに関する論考を執筆し、掲載されていた。さらに、1980年代においては、日本学校保健学会が総力を挙げてというにふさわしい保健教育に関する学会共同研究が企画・組織され、A班（代表：森昭三筑波大学教授）、B班（代表：内山源茨城大学教授）、C班（和唐正勝宇都宮大学教授）の3グループに分かれ、数年にわたる研究成果は、中間報告、最終報告と公にされ、学会における保健教育研究への意識形成に大きな役割を果たした。しかしながら、その後、小規模な企画や誌上フォーラムなどが企画・実施されたものの、学会誌としての「学校保健研究」では、保健教育に関する規模の大きな企画は実施されてこなかった。

令和3年度（2021年度）に、大澤功編集委員長のもとで、年度をまたぐ連載企画として「日本学校保健学会が保健教育の未来を考える」というテーマによって、本格的な保健教育のあり方についての議論を始めたことは、わが国全体の保健教育にあたる影響は大きいと考えられる。日本保健科教育学会などの専門学会が発足してはいるものの、保健教育に関する最も規模の大きな学術研究団体は日本学校保健学会であり、そこでの議論の動向は日本における保健教育のあり方全体に重要な意味をもつことは明らかである。

2. 「日本学校保健学会が保健教育の未来を考える」が目ざすところは何か

「学校保健研究」誌の連載企画「日本学校保健学会が保健教育の未来を考える」は、同学会の名誉会員であり、かつて同学会の保健教育共同研究の研究班代表の1人であった森昭三筑波大学名誉教授の問題提起にもとづいて、高橋裕之氏（千葉大学教育学部教授）と七木田文彦氏（埼玉大学教育学部准教授）によって具体的な企画が検討され、実施されている。この企画の前提には、現在の保健教育が「低迷」しており、この低迷を生み出している原因を探りながら、保健教育の発展を阻害する制度的課題について論究するという姿勢が示されている。現在の保健教育が果たして真に低迷しているか、そうであるとしてそれが制度的課題によるか否かについては、議論のあるところであろうが、このような教育内容や教育方法の次元ではなく、日本の保健教育に関して教育課程の構造上の議論として取り上げる姿勢は、少なくとも近年の日本学校保健学会の議論ではみられなかったものである。

企画者の1人である高橋氏の連載第1回の論考「現在の保健教育の課題を整理する」（「学校保健研究」第63巻：33-36, 2021）では、現在の保健教育の課題を議論する理論的分析枠として3つの検討課題を提起している。

- ①保健教育が教科と教科外に分かれるという形に必然性はあるのか？
- ②保健体育という枠組みは妥当か？
- ③教科の中であるいは教科の外で保健教育は正しく機能しているか？

これらの問いは、保健教育が保健授業と特別活動を主体とする教科以外の機会を用いた保健指導に大別されること、保健の授業が教科としては体育・保健体育の領域・分野・科目として展開されていること、そしてそれらの活動はさまざまな課題を含みつつも順調に推移しているという通念を問い直そうとする意図からなされている。すなわち、この問いから逆に照射される命題は「保健教育は教科と教科以外の教育活動にことさら分けて実施される必要はない」「保健教育は保健体育という教科の中で展開される必然性はない」という教育課程上の原理的な問いである。

このことを学会として検討するために、同連載はさまざまな角度から保健教育の未来を探る試みを始めている。

3. 保健教育の歴史と現実

第2回以降の連載では、高橋氏とともにこの連載企画を担った七木田文彦氏による第2回連載「日本における保健教育の歴史から現代をどう見るのか」（『学校保健研究』第63巻：106-112, 2021）、植田誠治氏（聖心女子大学現代教養学部教授）による第3回連載「世界との比較で保健教育をどうみるか ―米国と英国の動向からみた課題と解決の方向性―」（『学校保健研究』第63巻：175-180, 2021）、小浜明氏（仙台大学体育学部教授）による第3回連載「世界との比較で保健教育をどうみるか ―フィンランドが指し示す日本の保健教育の未来―」（『学校保健研究』第63巻：181-189, 2021）、大澤功氏による第4回連載「学校保健に関わる医師の立場から保健教育をどう見るのか ―適切な意思決定のための保健教育―」（『学校保健研究』第63巻：263-266, 2022）、儀賀理暁氏らによる第4回連載「学校保健に関わる医師の立場から保健教育をどう見るのか ―適切な意思決定のための保健教育― そので何を学ぶのか―」（『学校保健研究』第63巻：267-270, 2022）と5編の論考が公にされ、現在なお連載企画は継続中である。

いずれも一定の分量をもった論文であるので、その詳細を論じ尽くすことは紙幅が許さないが、各論考の要点を簡単に紹介したい。

七木田氏は、保健科教育成立過程に関する研究の第一人者であるが、同氏によれば戦後教育改革時における「保健科」誕生当時から、合科的教科（「保健」と「体育」の合科）としての「保健体育」科には「保健」のもつ教科としての独立性や授業担当者の質的問題（保健の内容を系統的に教授可能な保健体育教師は制度的に養成されていなかった）などから当初より課題が指摘されていたことや、保健教育の研究が保健体育科の枠組みの中でなされてきたことに対して、保健教材研究会による「保健の授業書づくり」やライフスキルなどの行動科学的方法による健康教育のあり方が関心を集めることによって、保健の授業はむしろ保健体育科から相対的に離脱傾向を示していたことを指摘し、実践としての「保健」授業の先行性はもはや「保健体育」の枠組みを超越していることを示唆している。

植田氏や小浜氏は、アメリカ合衆国や連合王国（英国）、フィンランド共和国の保健教育の実状をもとにそれらの日本の保健教育へ示唆するところを論じている。これも紙幅の関係で詳細を伝えられないことは残念であるが、アメリカ合衆国や連合王国では州や地域によって異なるものの健康教育を重視する傾向は顕著になっているものの、教科としての保健を独立させていく方向性は必ずしも明確ではない。それに対して、フィンランド共和国では明確に保健を教科として独立させていった経緯と現状が報告され、日本における保健教育に大きな示唆をあたえてくれる。小浜氏が引用している「健康に関わる教育内容は、他の教科との合科形態では成功しないし、重大な欠陥のある状態に導いてしまうということも示された」というフィンランド共和国のレーナ氏の記述は、日本とは異なる社会文化的背景での文脈とはいえ衝撃的である。

また、大澤氏や儀賀氏ら医師の立場からの保健教育への視点には、明確にエビデンスにもとづく思考力や判断力にもとづくヘルスリテラシーの形成が保健教育の課題であること、そして、儀賀氏らが指摘する一見動きのない「自己との深い対話」こそが「主体的・対話的で深い学び」の根源を成すという点は、保健教育の教科としての位置づけをいかに考えるかについて黙過できない論点である。

「学校保健研究」誌での保健教育についての連載は今後も継続される。折をみてその後の展開を報告したい。

全国健康づくり推進学校表彰校の実践①

やさしく なかよく かつどうする児童の育成

～家庭・地域と連携した安全教育やあたたかな学級・学校をつくる指導を通して～

令和3年度最優秀校 群馬県高崎市立矢中小学校

1 学校紹介

本校は、1984年(昭和59年)に旧高崎市30番目の学校として開校し、地域に愛され地域の発展と共に歴史を刻み、今年で38年目を迎えた。児童数389名、18学級の中規模校である。開校当時は田園風景が広がっていたが、急速に宅地化が進み、総合病院や大型商業施設が立ち並ぶようになり住みやすい街と発展している。「地域の子供は地域で育てる」という意識が高く、本校設置の学校支援センター「まなBee(学習支援)」「Bookろー(読み聞かせ)」「る・る・Bu(学校支援)」の3つのボランティア団体には多くの方が加入し、子供たちの豊かな学びや多彩な体験のため、矢中地区全体で子供たちの成長を支えている。また、登下校指導には、地域の見守り隊(登録数約90名)の方が、児童の安全確保に協力している。



2 学校経営方針と健康づくり

本校では、学校教育目標「確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる児童の育成」の下、経営方針として「児童が毎日元気に登校し、仲よく遊び、楽しい学校生活を送ることができるように、全職員が全児童の担任という意識をもち、児童一人一人に愛情を注ぎ、力を合わせ全力で日々の教育活動を推進する」「家庭・学校・地域が連携した魅力ある教育活動を推進し、いじめや不登校のない温かい学校づくりを行う」ことを目指している。

また、「保健・体育・食育を関連付けた三位一体の健康教育『元気アップ高崎』の推進」を重点目標の一つに掲げ、保健主事を中心に関係職員と連携を図った組織的な取組を行っている。特に、健康づくりの推進に関わる組織としては、健康教育推進委員会を柱に、学校保健委員会、児童保健委員会、PTA保健委員会、食物アレルギー対策委員会があり、それぞれが連携を図りながら活動を推進できるようにしている。

3 特徴的な活動

令和3年度は『元気アップ高崎』において「保健・体育・食育」で連携し、「姿勢・体幹・骨」に重点を置いた健康教育に取り組んだ。また、高崎市の学校教育の重点である「あたたかい人間関係づくり」を学年・学級経営の重点に位置付け「やさしく なかよく かつどうするあたたかな学級・学校をつくらう！」を児童会活動の合言葉にし、お互いを尊重し合い認め合うことができる児童の育成に取り組んできた。

(1) 学校保健委員会の取組

本校では、保健・体育・食育を関連付けながら学校保健委員会を核として全教育活動を通じて健康教育を推進している。学校保健委員会では、運営案を基に関係職員及び学校医と打合せを行い、テーマに沿った協議になるようにしている。また、児童保健委員による調査・研究の提案、小グループでの協議の進行、保健集会で全校への発表等児童が主体的に活動することで、自ら課題に気付き、解決するための手立てを考えられるようにしている。今年度は、「姿勢について考えよう」をテーマにより姿勢を意識させている。校区の中学校との地域合同学校保健委員会では、オンラインで「充実した中学校生活を送ろう」をテーマに話し合うことができた。中学生から温かいメッセージをもらい不安解消や中学への希望につなげることができた。



【体幹トレーニングの様子】

(2) 自分の身は自分で守る安全教育

① 避難訓練と避難経路確認

火災や地震の避難訓練の他に、不審者侵入時の避難訓練を警察からスクールサポーターを招いて行い、不審者に声をかけられたときの対処法についてロールプレイングを通して学習した。また、不審者侵入時のSOSカー

ドの使い方についても学習し、自分の身は自分で守るという意識を高めることができた。

② 一斉下校と引き渡し訓練

本校では、集団登校を行っていないが、非常時に下校する方向が同じ児童を確認するために、年に3回一斉下校を行っている。その中で、集団で歩行するときの隊形や、交通量の多い道路での安全な歩行の仕方、また、通学路の危険箇所について確認している。引き渡し訓練については、保護者の協力を得て、PTAとともに児童の誘導を行いながら実施している。令和3年度は体育館での引き渡しに加えて、校庭での引き渡しの実施方法も確認した。

(3) 心の健康

① いじめ防止に関わる取組

○学級/学校スローガンづくり(前期)

毎年5月に各クラスでいじめゼロスローガンを作り、それを短冊に書いて1年間クラス掲示をしている。また、このスローガンを持ち寄り4・5・6年生の学級代表と各委員会の委員長で話し合い、学校スローガンを作っている。令和3年度の校内スローガンは「作ろうよ みんなの笑顔 明るい学校」に決定し、日頃からいじめ防止の意識を高めるために児童玄関に掲示している。

○いじめゼロ集会(後期)

いじめを未然に防ぐための取組として、毎年児童会本部役員が活動を考え、学校全体で取り組んでいる。令和2・3年度は「いじめゼロプロジェクト」を実施した。学校生活で友達の言葉がけや振る舞いから、あたたかな気持ちになれたことや、やさしい気持ちをもてたことを付箋に書いて貼り、みんながあたたかな気持ちになれる行動について考える活動を行った。また、1週間の終わりに、各学年で貼られたあたたかい言葉を給食時の放送で紹介した。



② あいさつ運動・さよなら運動

今まで、5・6年生児童を中心とした委員会が「あいさつの花を咲かせよう！」を合言葉に「朝のあいさつ運動」を行っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策で朝の検温の時間を確保するために「朝のあいさつ運動」を休止した。そこで、令和3年度は5・6年生を中心としたたてわり班の各団が、下校時、玄関前と校門前に分かれ「さよなら運動」を行っている。気持ちのよいあいさつを行うことで、よりよい人間関係づくりができています。



③ 異学年との交流

月1回月曜日の5時間目に、6年生がリーダーとなり「たてわり遊び」を行っている。たてわり班の活動を通して、下級生を思いやりながら遊ぶことができるようになっている。

(4) 家庭・地域との連携

① 見守り隊・交通指導員と保護者による朝の交通指導

地域のボランティアとして「見守り隊」があり、児童の下校時刻に合わせて通学路に来ていただき、児童の安全な歩行の支援をしていただいた。PTA全会員が6地区に分かれ「校区内パトロール」を実施している。また、PTA安全委員会では「子どもを守る家・守る店」への協力依頼を通して児童の健全な成長を見守っている。

② おやじの会

校舎内外の整備として廊下のライン引き、体育館のペンキ塗り、おやじ文庫として本の寄付を行っている。

③ 学校支援センター

学習支援ボランティア「まなBee」は3・4年生対象に放課後、算数を教えている。読み聞かせボランティア「Bookろー」は1年生から6年生の全クラスで、読み聞かせを実施している。子供たちの心を耕し、想像力を育み、あたたかな学級づくりに一役買っている。「見守る」「教える」「遊ぶ」に因んで名付けられた、学校支援ボランティア「る・る・Bu」は、授業の準備や加湿器の掃除、水泳学習の監視、新体力テストの補助などを行ってもらうことで安心した活動が実施できている。

4 まとめ

あたたかな学級・学校づくりの指導の積み重ねを通して、自他のよさを認め合う場面が増え、友達とよりよい関わり方ができるようになってきている。また、日常的に異学年で遊ぶなど児童が学年関係なく仲よく学校生活を送る様子も見られる。安全教育の取組においては、危険を予測し、適切な避難行動がとれるようになっている。また、地域の「見守り隊」が定期的に見守ってくれるなど防犯対策にも役立っている。

今後も学校からの情報発信に力を入れていくとともに、学校評価や学校運営協議会等を活用し、家庭・地域の声に常に耳を傾け、あたたかな学級・学校づくりや安全教育の充実と改善につなげ、地域と共によりよい学校をつくっていききたい。

学校における熱中症対策

～「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」の活用について～

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

安全教育推進室 学校安全係長 沖 和雄

はじめに

近年、学校管理下における小学校、中学校、高等学校等の熱中症の発生状況（独立行政法人日本スポーツ振興センターが、学校管理下における熱中症に対して医療費を支給した件数）は、平成30年度は酷暑の年で約7,000件、それ以外の年度は約4,400件から約5,000件学校管理下で熱中症が発生している。令和2年度は約3,300件と少なくなっているが、これは学校における熱中症対策とともに、新型コロナウイルス感染症予防の観点から学校教育活動が制限されたことが要因と考えられる。また、学校管理下における熱中症死亡事故（独立行政法人日本スポーツ振興センターが、学校管理下における熱中症に対して死亡見舞金として支給した件数）は、平成27年度から令和2年度で8件となっている。

政府においては、国内で近年熱中症が増加している

こと、今後の気候変動等の影響を考慮すると益々悪化していくことが懸念されることから、令和3年3月25日に「熱中症対策行動計画」を作成した。また、令和3年4月28日から「熱中症警戒アラート」（以下、「アラート」）が全国で運用されている。これは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表されるものである。

こういった状況において、環境省と文部科学省では、「学校現場における熱中症対策の推進に関する検討会」を開催し、学校における実際の熱中症対策や判断の参考となる事項について検討し、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」（以下、手引き）を作成の上、令和3年5月に公表した。本稿では、手引きの内容と活用方法、学校における熱中症対策の留意点について述べていきたい。

1. 「手引き」作成の目的

手引きを作成した目的は、2つある。1つ目は、教育委員会等の学校設置者等が、各地域の特性等を踏まえ、独自に作成する学校向けの熱中症対策ガイドラインの作成・改訂の参考資料として役立ててもらうことである。令和2年度に環境省・気象庁・文部科学省が連名で熱中症警戒アラートの対象であった関東甲信地方の1都8県の教育委員会に対してアンケート調査等を行ったところ、回答した教育委員会の25.9%が「実施すべきだと考えているが、できていない熱中症対策」として、「学校向けの指針／ガイドライン／マニュアル等の作成」との回答があった。また、一部の教育委員会

では熱中症対策のためのマニュアルやガイドラインを作成していても、その内容の充実度に差があることや、教育委員会の学校に対する熱中症対策の指導に差があることなどが明らかになった。手引きには、教育委員会等の学校設置者等が、学校向けの熱中症対策ガイドラインを作成する際の構成例も示している。

2つ目は、各学校が、熱中症事故の防止や発生時の対応の視点で危機管理マニュアルの見直しや改善を行う際や、教育委員会等の学校設置者等が、各学校が作成した危機管理マニュアルの見直し・改善に向けた指導・助言等を行う際に、参考にし

ていただくことを目的としている。そのため、手引きには、熱中症対策に係る最新の情報や優良事

例を紹介している。

2. 基礎編

第2章では、熱中症の起こり方や熱中症を引き起こす要因、熱中症の症状及び重病度の分類、学校管理下における熱中症の発生状況、それらを踏まえた予防策などについて紹介している。学校において熱中症は毎年発生し、不幸にも死亡に至った例もある。しかし、熱中症は予防法を知っていれば発生や悪化を防ぐことができる。例えば手引きでは、体育・スポーツ活動における熱中症の予防原則として、以下の5点を紹介している。

- ① 環境条件を把握し、それに応じた運動、水分補給を行うこと
- ② 暑さに徐々に慣らしていくこと
- ③ 個人の条件を考慮すること
- ④ 服装に気を付けること
- ⑤ 具合が悪くなった場合には早めに運動を中止し、必要な処置をすること

教職員や指導者は、この5点が熱中症予防としてなぜ大切なのか、予防策として具体的にどのようなことを行えばよいのかについて、手引き等を活用し、十分理解して指導することが大切である。さらに、予防原則の4点目に服装について示しているが、コロナ禍において感染症予防とマスク着用のリスクを十分理解し指導を行うことも必要である。

第3章では、暑さ指数(WBGT)とはどのような

ものか、また、指数(WBGT)に応じた行動指針、暑さ指数計や測定方法について紹介している。暑さ指数(WBGT)は、熱中症の危険度を判断する環境条件の指標で、人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目し、熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れたもので、単位は、気温と同じ℃を用いる。暑さ指数(WBGT)を測定できる暑さ指数計は、文部科学省から、保健室に備えるべき備品とされており、固定式の装置や携帯型のものなどがある。暑さ指数(WBGT)は、先述のように複数の環境要素を合わせて測定しており、場所や時間により変動することがあるため、活動場所ごと、活動時間ごとに測定することが大切であり、用途に応じて暑さ指数計を選ぶと良い。

第4章では、本年度から全国で運用が始まった「熱中症警戒アラート」について紹介している。本アラートは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に、環境省・気象庁が新たに暑さへの「気づき」をよびかけ、国民の熱中症予防行動を効果的に促すための情報である。手引きには、アラートの発表の基準、発表方法、発表の地域単位・タイミング、情報の伝達方法などの紹介とともに、アラートの活用の視点、アラートに関して保護者や関係者等から問い合わせがあった際の対応の仕方について述べたコラムなども掲載しているので、ぜひ参考にしてほしい。

おわりに～熱中症の防止に向けて

本「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」の活用について、昨年10月に文部科学省・環境省・気象庁が実施した教育委員会に対する『「熱中症対策」等に関するアンケート調査』では、熱中症対策ガイドラインの策定に活用できていないとの回答も見られるところである。

学校管理下における熱中症事故は減少しているところであるが、今後の地球温暖化等の影響を考

慮すると状況は益々悪化していくことが懸念されることから、本手引きを活用し、学校医等や関係機関の協力を得ながら熱中症の予防に努めていただくよう、改めてお願いしたい。

手引き等を活用し、学校での熱中症対策が適切に行われ、児童生徒等の尊い命や健康が守られることを切に願っている。

～小学生には「小学生～大人用」パッドを！～ 蘇生ガイドラインの改訂とAEDパッドの 名称変更に至った背景

京都大学 医学研究科社会健康医学系専攻 予防医療学分野 教授

公益財団法人 日本 AED 財団 専務理事 石見 拓

はじめに

救急蘇生のガイドラインが5年ぶりに改訂された。これは、膨大な数の論文のレビューに基づく国際基準のガイドラインであると同時に、わが国の蘇生現場の課題を解決するために必要なことについて議論を繰り返した結果導き出されたコンセンサスでもある。蘇生ガイドライン 2020（文献1）の改訂にはいくつかのポイントがあるが、中でも学校現場の皆様幅広く知っていただきたいことの一つに自動体外式除細動器（AED）パッドの名称変更がある。本稿では、最新の蘇生ガイドライン改訂と AED パッドの名称変更に至った背景に触れながら、学校での心臓突然死ゼロ実現に向けた課題と展望について概説する。

I. 心臓突然死の実態と突然の心停止からの救命に求められるもの

日本では毎年7万人を超える方が心臓病が原因で突然心停止となり、その多くが亡くなっている。学校でも、毎年少なくとも100人以上にAEDが使用され、そのうち約30人に電気ショックが行われていると報告されている（文献2、3）。学校はAEDが最も有効に機能する場所の一つで、心停止のおよそ3分の2は社会復帰しているが、それでも残念ながら毎年約10人の児童生徒が学校管理下の心臓突然死で亡くなっている。

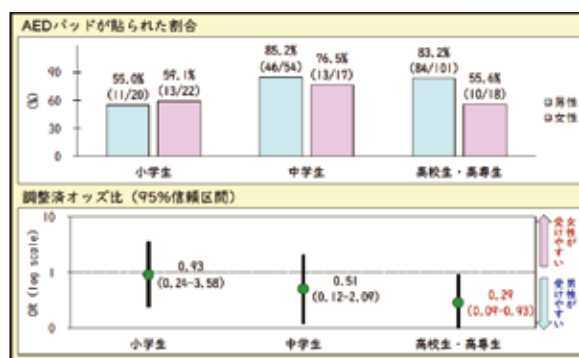
突然の心停止の多くは心室細動と呼ばれる致死性の不整脈によって引き起こされる。心室細動になると心臓は細かく震えるのみで血液を送り出せず、数秒で意識を失い、数分で脳に不可逆的な障害をもたらす。電気ショックが1分遅れるごとに10%ずつ救命率が低下するとされており、現場に居合わせたものによる迅速な心肺蘇生と電気ショックが救命のカギとなる。この基本コンセプトは今回の蘇生ガイドラインでも変わっていない。

II. AEDパッドの名称変更：小学生には「小学生～大人用」パッドを

AEDの電極パッド（モード）には、「小児用」と「成人用」の2種類が存在する。これは、体の小さな未就学児に対して相対的に高エネルギー量となる電気ショックでは心筋障害が生じうるため、エネルギー量を減衰させるためのものである。従来、「小児用パッド」は未就学児、「成人用パッド」は小学生以上を適応としており、適応範囲が変更となったわけではない。しかし、実際の心停止現場で、小学生に対して「成人用」を使うべき、ということに戸惑いが生じていたというインシデントが報告された。もし小学生に「小児用」を使用すると電気ショックのエネルギーが少ないために救命できなかった可能性があった。こうしたインシデントを受け、新しい蘇生ガイドラインでは、適応対象がより明確となるよう、「小児用パッド（モード）」を「未就学児用パッド（モード）」に、「成人用パッド」を「小学生～大人用パッド」に呼称が変更された。どちらのパッドを使用すべきか判断が難しいときや、未就学児用の電極パッドがないときには、小学生～大人用を小さい子どもに使用して構わないことも従来通りである。

今後、ガイドラインの変更を踏まえて、製品の表示も順次修正されていくと思われるが、全てのAEDの表記が変

図1：児童・生徒の心停止に対するAEDの使用状況



心停止傷病者が高校生になると女性の方が男性に比較してAEDのパッドが貼られる割合が減少している。

Matsui S, et al. JAMA Network Open. 2019

更されるまでには時間を要する。その間も誤って救命できなかったという事例が起きないように、小学生には「小学生～大人用」パッド（当面、成人用と表記されたパッドも存在）を使用することを確認していただきたい。

Ⅲ. 蘇生ガイドライン2020のポイント

① 救命処置実施の障壁を取り除く試み

今回のガイドラインでは市民の救命処置参加には様々な障壁が存在することを強調している。学校にAEDがあっても関わらず使用されなかった、さいたま市の小学6年生 桐田明日香さんの事故はその典型である。我々が学校での心停止を対象に行った研究では、救助の対象が女子高校生になるとAEDの使用率が減少することが示された（図1、文献4）。このほかにも、様々な要因が救命処置実施の障壁となっていると報告されている。さいたま市教育委員会が明日香さんの事故の反省をふまえて作成した「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」では、反応の確認、呼吸の確認など心停止の判断をする際に、「判断ができなかったら、胸骨圧迫とAEDの使用に進む」という迅速な行動開始の重要性が強調されているが、新しい蘇生ガイドラインでもこうした判断に迷った際に行動を開始することの重要性が強調されている。

② 児童生徒への救命教育

蘇生ガイドライン2020では、児童生徒への救命教育の重要性も強調されている。学校における救命教育は、救命処置の社会への体系的な普及につながり、突然心停止となった方々の救命に大きな力になる上に、学校を安全にして子どもたち自身を守ることに繋がる。更に、児童生徒に命の大切さや、共助の精神、自己有用感を感じ、学ぶ機会を提供することもできる。

図2：小学校での簡易型トレーニングキットを用いた胸骨圧迫のみの心肺蘇生講習会の風景

胸骨圧迫を適切な強さで行うと音が鳴るので、みんなで楽しく胸骨圧迫の体験ができる。簡易型のトレーニングキットを用いることで、授業の時間内に効率よく、胸骨圧迫とAEDの使用法を体験することが可能となる。

(NPO法人 大阪ライフサポート協会 PUSH プロジェクト：<http://osakalifesupport.jp/push/index.html>)



近年、胸骨圧迫とAEDを簡単に学ぶことのできる教材が普及し、授業の時間内に心肺蘇生とAEDを指導する環境が整ってきた（図2）。新しい学習指導要領では、中学校、高等学校において、実習を通じてAEDを用いた救命処置を習得するよう求めるなど位置づけが強化されたほか、小学校の教科書の一部にもAEDに関する記載が追加されるなど、学校における救命教育を実現する環境は整ってきている。日本AED財団では、新しい学習指導要領に対応してAEDを用いた救命処置の教育を実践することができるように、全日本学校教材教具協同組合が開発した学校教育教材を監修した（<https://www.jkkcoop.net/about/union/aed-dev-committee/>）。また、現在学習指導要領に位置づけがない小学校での救命教育を支援するために、副読本を作成し、無償で提供しているのでご活用いただきたい（<https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/poster23-4.pdf>）。

おわりに 学校での心臓突然死ゼロを目指して

学校内へのAEDの適切な設置と管理、教職員の訓練と急変時のチームワーク、学校心臓検診や日ごろの健康観察を通じたハイリスクな児童生徒の把握と平時の備え、児童生徒への救命教育を組み合わせることで、学校管理下の心臓突然死ゼロを目指すことは決して不可能なことではない（<https://www.j-circ.or.jp/cpr/suggestion.html>）。今回の蘇生ガイドラインの改訂とAEDパッドの名称変更に至った背景を理解し、安心安全な学校づくりに役立てていただきたい。

- | | |
|--|----------|
| 1) JRC蘇生ガイドライン2020. 一般社団法人日本蘇生協議会 監修. 医学書院. | 2021年6月 |
| 2) 学校における心肺蘇生とAEDに関する調査報告書. 公益財団法人日本学校保健会. | 2017年 |
| 3) 学校の管理下の災害 令和3年版. 独立行政法人日本スポーツ振興センター. | 2021年12月 |
| 4) Matsui S, Kitamura T, Kiyohara K, Sado J, Ayusawa M, Nitta M, Iwami T, Nakata K, Kitamura T, Sobue T, for the SPIRITS Investigators. Sex disparities in receipt of bystander interventions for students who experienced cardiac arrest in Japan. JAMA network open 2019; 2(5): e195111. | |

令和4年度 学校保健用品推薦一覧

推薦期間: 令和4年4月1日～令和5年3月31日


品 目	摘 要	会 社 名
健康管理支援ソフト 「応用版 子供の健康管理プログラム (平成27年度版)」	『児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂』付録CD-ROMの応用版。Excel原票を用い、個々にパーセントایل成長曲線が描けるPC用ソフト	勝美印刷株式会社
JES シューズ	「JES 活動(足元からの健康教育『足育』の普及啓発活動)」を推進するために研究・開発した学校シューズ	日本教育シューズ協議会
小学校・中学校・高校生向け シャツ・ブラウス	耐洗濯性に優れた制菌加工を施した形態安定シャツ	菅公学生服株式会社
シキボウ「健康快服」	学生服、体操服、給食衣等 健康な学校生活を送るための機能加工を施した生地。 抗ウイルス・抗菌防臭・制菌・抗かび・消臭・ノロウイルス対策・防汚加工	シキボウ株式会社
UVカットウェアスクールシリーズ	学校生活の紫外線対策として、UVカット率の高い特殊な繊維を使用したスクール対応衣類製品	株式会社ピーカパー
電動付歯ブラシ「こどもハピカ」	米国FDAの規格基準を満たす品質・安全性。通常のブラシの使用が困難な子どもにも有効な仕様	株式会社ミニマム
クリニカkid'sハブラシ生え替わり期用	子どもの成長過程に合わせた歯科医推奨設計のハブラシ	ライオン株式会社
ライオンこどもハブラシ 6-12才用(ドラゴンボール超) (まめゴマ)(ミニオン)	先端丸形カットの毛先だから生え替わり期の高さがふぞろいの歯もきれいに磨けるハブラシ	ライオン株式会社
腸内細菌検査キット	学校給食従事者、文化祭、実習時等に必要とされる検便検査キット。郵便等で簡便に検査が受けられる	一般財団法人東京顕微鏡院
パッシブガスチューブ (ホルムアルデヒド用、VOCs用)	室内化学物質測定。3次元に空気採取でき、精度の高いサンプリングが可能。厚労省・文科省・環境省等すべてに対応する分析(公定法)を採用	一般財団法人東京顕微鏡院
マイティチェッカー	屋内の塵性ダニアレルゲン抽出液に浸し発色チェッカーで確認、ダニ抗原を簡便に測定できるキット	リオンテック株式会社
デジタルCO ₂ モニター (RT-50A1)	教室内のCO ₂ 、温度、湿度をリアルタイムに計測、データを記憶保存ができる	リオンテック株式会社
ポケットCO ₂ モニター (RT-55型)	学校教室内及び室内の換気測定	リオンテック株式会社
ハイライト®	プール用殺菌・消毒剤	日産化学株式会社
日曹ハイクロン	プール用殺菌・消毒剤	日本曹達株式会社
ネオクロール	プール用殺菌・消毒剤	四国化成工業株式会社
アクアピルシリーズ	プール水透明度改善凝集剤 人体無害、液に接触せず投入が可能	蔵王産業株式会社
トヨクロン (トヨクロン、トヨクロンファイン)	プール用殺菌・消毒剤	東ソー株式会社
肝油ドロップ	栄養機能食品	河合薬業株式会社
キシリトールガム及びタブレット	児童生徒の口腔保健の向上を目的としたチューインガム及びタブレット	株式会社ロッテ
アクエリアス	熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定(厚生労働省確認済み)の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、ローカロリーで、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アクエリアス ゼロ	ゼロカロリー。熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定(厚生労働省確認済み)の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アクエリアス 1日分のマルチビタミン	ビタミンC1000mg / 500ml配合。熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定(厚生労働省確認済み)の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、ローカロリーで、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アクエリアス 経口補水液	清涼飲料水。水分と電解質を素早く補給、夏の暑さや運動などで大量に汗をかいた時の水分補給に最適(電解質濃度が高い組成になっている。ナトリウム98mg、カリウム80mg)	日本コカ・コーラ株式会社

品 目	摘 要	会 社 名
アクアソリタ	長年医療現場で使用されてきた電解質液組成をベースに開発された、飲みやすい経口補水液（特許取得済）。ハイポトニックで水分・電解質の吸収が速く、しっかり体内に保持できる、糖分・カロリーにも配慮した熱中症対策・脱水対策飲料	味の素株式会社
しろくまのきもち キッズ	水だけで首元が冷やせ、繰り返し使えるサマースカーフ。園児・児童の熱中症予防に有効な頸動脈を冷やせる冷却グッズ	株式会社ビッグウイング
スタークロン	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
スタートリクロン・ダイクロン	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
学校健診情報の個人及び教育委員会、学校への可視化還元システム	学校健診情報の可視化による個人・自治体・学校（私立の場合）に対しての健康情報の還元とそのデータベース化を行うシステム	リアルワールドデータ株式会社
RYOBI-校支援	小学校から中学校までの9年間のデータを学年ごとに管理、養護教諭が手入力する必要なく、「応用版子供の健康管理プログラム平成27年度改訂版」の基本データファイル「Excel原票」に自動変換して出力する機能等を搭載	株式会社両備システムズ
乳酸菌タブレット	「体本来の守るチカラ」をサポートするシールド乳酸菌M-1を3粒で100億個配合した錠菓。小さなお子様でも手軽に美味しく食べることができる	森永製菓株式会社
ロリエ しあわせ素肌	吸収性に優れ、肌にやさしい生理用ナプキン	花王株式会社
ロリエ きれいスタイル	吸収性に優れ、肌と下着を清潔に保つおりもの専用シート	花王株式会社
EDUCOM マネージャー C4th	登録された健康診断情報を利用した成長曲線を含めた各種帳票が作成できる。「子供の健康管理プログラム」にも対応した校務支援システム	株式会社EDUCOM
学校保健総合管理〈えがお〉	学校の保健業務を総合的に支援する校務支援ソフトウェア	スズキ教育ソフト株式会社
スズキ校務シリーズ	日々の出欠や保健室への来室記録・健康診断の結果などの登録から集計、保護者への通知文書の発行までデータ管理や帳票作成を支援するPC用ソフトウェア	スズキ教育ソフト株式会社
塩分チャージタブレット	汗をかいた時の塩分補給清涼菓子	カバヤ食品株式会社
塩分チャージタブレット 塩レモン	汗をかいた時の塩分補給清涼菓子	カバヤ食品株式会社
熱中症対策ベスト アイスハーネス	保冷剤で背中・両脇の下を効率的に冷やし体温上昇を抑制、熱中症を予防するベスト	赤城工業株式会社
カロリーメイト・ブロックタイプ	朝食欠食時、体調不良時の代替食や運動前後の補食	大塚製薬株式会社
カロリーメイト・リキッドタイプ	朝食欠食時、体調不良時の代替食や運動前後の補食	大塚製薬株式会社
カロリーメイト・ゼリータイプ	朝食欠食時、体調不良時の代替食や運動前後の補食	大塚製薬株式会社
カロリーメイト・ブロックロングライフ	朝食欠食時、体調不良時の代替食や運動前後の補食、長期保存が可能	大塚製薬株式会社
デジタル校務	小中学校の保健業務を支援する機能のある校務支援システム	株式会社内田洋行
自動体外除細動器レスキューハート HDF-3500	心停止時の救命処置	オムロン ヘルスケア株式会社

先着
12万部

小学校保護者向けパンフレット&児童用チャレンジシートを作成しました。

～「運動」「食事」「睡眠」で子どもの生活習慣を育む～



名 称：小学校保護者用パンフレット「学校と家庭で育む子どもの生活習慣」（児童用チャレンジシート付） A4・8ページ（チャレンジシートはA3二つ折り） 一無料
発行・編集：（公財）日本学校保健会 児童生徒の生活習慣向上啓発委員会
制作協力：大塚ホールディングス株式会社
内 容：指導者用冊子『学校と家庭で育む子どもの生活習慣 改訂版』（2017年3月発行）を参考に、「運動」「食事」「睡眠」のテーマごとに、現在の子どもの実態と課題、健康づくりのポイントをまとめ、子どもの望ましい生活習慣確立の重要性を保護者と子どもにわかりやすく伝える内容になっています。
申込方法：（公財）日本学校保健会ポータルサイト（<https://seikatsusyukan.hokenkai.or.jp/>）から申込。
申込期間：令和4年5月9日（月）から応募先着順（12万部に達次第終了）。
 ※使用の検討準備をいただけるよう、例年よりご案内を早めました。詳しい内容は同ポータルサイトでご確認ください。

品 目	摘 要	会 社 名
SchoolEngine[校務支援システム]	来室記録の集計、保健日誌の作成、健康診断結果の登録・通知等ができる校務支援システム	株式会社システム デイ
校務支援システム Te-Comp@ss	小中学校向け統合型校務支援システム	株式会社文溪堂
ダニスキャン	保健室の布団、枕、カーペットおよび教室等のダニの発生場所の検査キット	リオンテック株式会社
iFuture	小中学校9年間の健康診断結果データを管理。管理データから『応用版 子供の健康管理プログラム平成27年度改訂版』に取り込む「Excel原票」が出力可能	東京書籍株式会社
アレルリッド敷き寝具	アレル物質を吸着する素材アレルリッドを採用した寝具	東洋羽毛工業株式会社
ゴア羽毛掛け布団	ゴア®メンブレンによりふとん内部を清潔に保つ寝具	東洋羽毛工業株式会社
ビオレUV キッズピュアミルク	繊細な子どもの肌にもやさしい設計の日やけ止め(紫外線吸収剤ゼロ、無添加など)。汗・水にも強く、外遊びが大好きな子どもにもおすすめ。	花王株式会社
e³school 校務エキスパート Jr	小学校から中学校までの健康診断結果等を管理可能なシステム。また、保健室の利用に関する管理や保健日誌の作成も可能。登録した各種データから成長曲線などの必要な統計の作成まで可能な校務支援システム。	株式会社システムリサーチ
校務支援システム Clarinet	校務支援システムによる保健管理の簡略化	株式会社サイバーリンクス
CONVERSE/コンバース スポーツ ゴーグル眼鏡フレーム CVG-003	スポーツ時に使用する眼鏡フレーム	青山眼鏡株式会社
ハンディタイプ微風速計 (RT-11 型)	学校教室内及び室内の気流(微風速)測定	リオンテック株式会社
アイグローブ	スポーツ時に装着する眼鏡フレーム	株式会社 GLASSART
卓上型 CO ₂ 換気チェッカー (RT-56 型)	教室、給食室等の学校施設の洗浄および除菌・除染各室内の換気測定及び監視	リオンテック株式会社
アルボース石鹸液 iG-N (手洗い用石鹸液 SD)	皮膚の洗浄・殺菌・消毒	株式会社アルボース
デジタル身長体重計	効率よく児童、生徒の身体測定ができます	株式会社エー・アンド・デイ
3D バックスキャナー	学校健診の必須項目である脊柱側弯症で使用	株式会社日本医療機器開発機構
映るんグレー黒板	映写兼用黒板	株式会社青井黒板製作所
ナノホワイトボード(マーカーボード)	映写兼用ホワイトボード	株式会社青井黒板製作所
アクエリアス 乳酸菌ウォーター	シールド乳酸菌120億個配合したアクエリアス 乳酸菌ウォーター。すっきりヨーグルト味でごくごく飲めて体調管理	日本コカ・コーラ株式会社
アルソフト手指消毒ローション (指定医薬部外品)	手指の消毒、除菌	東京サラヤ株式会社
バイゲンラックス	プール用水殺菌・感染症対策	株式会社カズサ
キシリトールガム噛むトレ(ビリ ビリサイコソーダ)	キシリトール配合で噛む力(咀嚼力)意識向上	株式会社ロッテ
SCOLIOMAP	3Dカメラで背中を撮影し、背中の中の形のずれを解析する	株式会社コスミックエムイー
CO ₂ れんら君	CO ₂ 濃度、熱中症等のリスクを見える化。一括監視も可。	NKE 株式会社
ミルクのようにやさしいダイズ 200ml/950ml	牛乳相当のカルシウムにビタミンDを加えた“まるごと大豆飲料”	大塚食品株式会社
アイスボックス (グレープフルーツ)	全国清涼工業会制定の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量を配合した氷菓子。低カロリーで飲料より少ない量で体を冷やすことができる	森永製菓株式会社

正しいコンタクトレンズ・ケア方法のご紹介

公益社団法人 日本眼科医会

学校保健委員会監修チラシをご用意しました!

コンタクトレンズ・ケアのご指導にぜひお役立てください。

▽▽▽▽ チラシ受付窓口はこちら ▽▽▽▽

<https://www.ophtecs.co.jp/csr/>

※数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきます。



Ophtecs



虎ノ門(174)

桜めぐり

今年の3月下旬に、連続して桜をめぐることがあった。いずれも都内の桜の咲きほこる地を連日で訪れた。その初日は、家人と語らって初めて桜をめぐるとクルーズに乗船した。クルーズ船といっているものの、早い話が隅田川を下る屋形船(2年前の今ごろにはCOVID-19の感染拡大の元凶として扱われ、ずいぶん風評被害に苦しんだらしい)で、多少意外な感覚ではあったが、天王洲の発着場を出ると、そのまま目黒川に入り、雅叙園下でUターンするコースであった。いつも報道される目黒川の桜の名所は川幅の関係でUターンができないために行けないそうで、何となく肩すかしをくったようである。

翌々は所用で東京大学に向かうことがあったので、東大構内と帰路上で上野公園の観桜を試みた。東大病院前の桜も見事に満開で卒業生もさぞこの下で晴れの姿を画に残したであろうと思われた。不忍池の桜も満開で、桜より人を見るときに光景ではあったが、宴席もないので十分楽しめた。



目黒川雅叙園下の桜

某テレビ番組からの仕入れなので信憑性のほどは不明であるが、東京の川岸に桜が多いのは、桜の根の張りや観桜の人出で堤を固める意図からなされたという。桜を見ると、年度替わりを感じ、新しい年度の仕事を思い起こさざるを得ないので、何となく憂鬱な気分も混じるが、短い期間で咲く桜を楽しむ日本の風情は何となく残して行きたいと思う。時期遅れの花だよりでした。

(会報『学校保健』編集委員 瀧澤利行)

令和4年度文部科学省補助事業

事前登録制・無料

「学校における水泳プールの保健衛生管理」研修会 オンデマンド開催

配信期間 令和4年5月20日(金) ~ 令和4年8月31日(水)

参加登録期間 令和4年4月27日(水) ~ 令和4年8月31日(水)

- (1)趣旨説明 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 担当官
- (2)講演1 プールの保健衛生管理上の課題
- (3)講演2 プールの施設管理上の課題
- (4)講演3 学校におけるプール活動の組織管理



※詳細・申込等は、ポータルサイト「学校保健」をご覧ください。

ツボミスクールからのお知らせ

成長期のからだや下着について「テキストと動画」の無料配布を行っています。

下着教室「ツボミスクール」の内容をまとめた

「テキストと動画」を無償で提供しています。

動画(約15分)はテキストと連動した内容で、

短時間でからだの成長や下着について

学ぶことができます。

初経指導や保健指導などにお役立てください。



—お申し込み期間—

◆受付と発送は3回に分けて行っています。

第1回 受付期間:2022年4月1日~2022年5月31日
発送期間:2022年6月上旬~6月中旬ごろ予定

第2回 受付期間:2022年6月1日~2022年9月30日
発送期間:2022年10月上旬~10月中旬ごろ予定

第3回 受付期間:2022年10月1日~2023年1月31日
発送期間:2023年2月上旬~2月中旬ごろ予定

ご不明な点やご質問は下記までお問い合わせください。

ワコール スクール事務局
e-mail: tsubomi@wacoal.co.jp



お申し込みはホームページから!

※スマートフォンからもご利用いただけます。 [ツボミスクール](#) [検索](#)

Menicon **コンタクトレンズや瞳に関するホームページをご用意いたしました！**
学校でのご指導にぜひお役立てください。

おすすめコンテンツ

- 1 はじめてガイド**
 コンタクトレンズの魅力や種類、使い方などをわかりやすく紹介し、コンタクトレンズデビューを応援するコンテンツ。
 コンタクトレンズデビューはここから！
はじめよう
コンタクトライフ
- 2 うんこ先生と学ぶ！ はじめてのコンタクトレンズ**
 メニコンと「うんこドリル」が合体！うんこ先生といっしょに「目」について楽しく学べる特設サイトとゲームを公開。
 うんこ先生と学ぶ！ はじめてのコンタクトレンズ
- 3 #カラコンのコレカラ**
 目の安全を守りながら健康的にカラコン（カラーコンタクト・サークルレンズ）を楽しむための情報発信サイト。
 #カラコンのコレカラ

詳しくはこちら <https://www.menicon.co.jp/gh/>



無料でお届けします！ **日本学校保健会 監修** **小学生向け20歳未満飲酒防止啓発ツール** **Asahi**

補助教材の内容

- なんで子どもはお酒を飲んだらいけないの？
- 毎日のお酒を飲み続けたらどうなるの？
- 親しい人からお酒を勧められた時の断り方は？

子どもは絶対お酒を飲んではいけません！
 さあ、ここから聞けてみよ！
 大人は子どもにお酒を飲ませないようにしてね！
 累計発送数 80万部以上！
 小学生にわかりやすく見やすい教材です。いつでもお申し込み可能です。ぜひ活用ください！
お申し込み、詳細はこちら！
www.asahibeer.co.jp/dousuru/

本サイズ/横:210×縦:106 (mm) 担当部署: アサヒビール(株)コーポレートコミュニケーション部 ARP担当 アサヒビール株式会社



小学校の校長先生・保健室の先生・担任の先生へ

出張講座 **楽しく学ぼう！ 歯の健康づくり** **好評！ オンライン授業**

出張講座概要 **応募締切 7月1日(金)**

募集対象 全国の小学校 ※応募多数の場合抽選 **開催時期** 2022年9月～12月

専門講師 日本歯科大学 生命歯学部 福田雅臣教授ほか予定

講座内容 咀嚼判定ガムを使って「噛む」事の大切さを体験しながら歯と口の健康づくりを学び、良好な生活習慣形成をしていくための支援を目的とします。 **★4～6年生対象**
 ※講座の費用負担はございませんが、事後アンケートの郵送料のみご協力ください。

Aコース	授業 (45分)
Bコース	授業 (45分) + 児童と一緒に給食を食べた後にガムを噛み、食後の口内環境をおさらいします。 ※講座の時間は給食前、4時間目を設定してください。
Cコース	授業 (45分) + 児童下校後、教職員会議 (学校保健委員会) にて職員の皆様に講座の更なる解説を行います。 ※時間は下校前、5、6時間目を設定してください。会議での解説は30分前後です。授業後の解説は大人向けです。
Dコース	オンライン授業 (45分) Web会議システム「Zoom」を使用します。 ※事務局よりお送りする招待メールが受信できるパソコンを1教室一台ご準備ください。 ※講座当日、運営スタッフが学校に赴き、別室にて待機させていただきます。※事前に接続テストを行います。

おすすめ!

申込方法 ①学校名 ②担当教諭名 ③住所 ④連絡先(電話・FAX) ⑤希望日・開始時間 (必ず第3希望日までご記入ください) ⑥参加予定学年・人数 ⑦希望コース

※本活動普及の為、メディア等が取材をさせていただく場合がございます。予めご理解いただけますようお願い致します。
 ※①～③を白紙等にご記入いただき、FAXにてご応募ください。※抽選の場合、当選された学校のみ7月下旬頃にご連絡致します。

申込先: FAX 03-3237-9802 企画・監修/共催: (公財)日本学校保健会
 歯の健康づくり講座事務局 (オックスフォード・インターナショナル内)
 電話03-3237-9820 2022年5月9日(月)より 10:00～17:00(土・日・祝日を除く) **協力: LOTTE**

